

奈良県指定文化財調査票

調査日	2020 年	9 月	19 日	記入者	久門たつお
調査者名	饗庭	垣内	久門	鶴田	

文化財名	鳥谷口古墳				
種類	<input checked="" type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()
指定年月日	1987年(昭和62)3月10日				
所在地	葛城市染野字鳥谷口679				
所有者 管理者	葛城市				
員数	1基				
時代区分	7世紀後半ごろ				
樹木の場合	(樹木名)			(樹齢)	
案内板の状況	古墳南側の道路沿いに県教委設置の説明板、横口式石槨近くに名称板有り。				
公開	見学自由。				
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input type="checkbox"/> 良い	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足 (横口式石槨が鉄柵越しに間近で見ることができるよう配慮されている。)				
当面の課題	県指定時の1987年に横口式石槨の近くに設置された名称板だが、劣化が進み、所在地、指定年月日など読み取れない箇所も多い。説明板は古墳南側の二上山登山道沿いに2019年(平成31)に設置され真新しいが、名称板の補修は必要だ。				
今後の課題	被葬者を大津皇子とする説があるが、盗掘されていたこともあって断定は困難な状況。しかし、古代史や万葉集などでよく知られた大津皇子の埋葬地の可能性がある古墳なので、そのことに触れる新たな説明板設置を葛城市か民間団体に望みたい。				
その他 (由緒など)	1辺約7mの方墳。二上山から東に延びる尾根の先端付近の南斜面に築造された。1983年(昭和58)に近くのため池「大池」の改修工事に伴う採土の際に発見された。埋葬施設の横口式石槨は二上山産の凝灰岩製。東西方向が長く、内側の長さ(内法)は縦158cm、横60cm、高さ70cm、南側にある開口部は幅40cm、高さ50cm。石槨の底石と北側石は家形石棺の蓋石の未完成品が使用されている。				
コメント	天武天皇の第3皇子、大津皇子は686年(朱鳥元)、天皇崩御後、謀反をねつ造された末に命を断たれたとされる。二上山に葬られる際、姉の大伯皇女(おおくのひめみこ)が「うつそみの人なる我や明日よりは 二上山(ふたかみやま)を弟背(いろせ)とわが見む」(万葉集)と詠んだのは有名。宮内庁は二上山雄岳山頂近くの二上山墓を皇子の墓としているが、信憑性に疑問がもたれてきた。7世紀後半の築造、石槨の素材などから急ごしらえとみられる鳥谷口古墳の被葬者研究の進展に期待したい。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2020年	9月	19日	記入者	久門たつお
調査者名	饗庭	垣内	久門	鶴田	

文化財名	鳥谷口古墳
------	-------

南側から。一見、古墳とは分かりにくい



県教委設置の説明板



保存のため石材の覆屋に収まる横口式石槨



二上山産の凝灰岩で造られた横口式石槨



墳丘の西側から。右奥は「大池」



県指定時に設置された名称板だが、劣化が著しい

